

令和5年度神奈川県立小田原支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度神奈川県立小田原支援学校第2回学校運営協議会	
開催日時	令和5年8月28日(月) 10:00~12:00	
開催場所	神奈川県立小田原支援学校 応接室	
出席者	委員6名(欠席2) 事務局8名	
次回開催予定日	令和5年11月14日(火) 10:00~12:00	
問合せ先	小田原支援学校湯河原校舎 副校長 鈴木 電話 0465-60-1800(直通) FAX 0465-60-1805 本校(小田原校舎) 電話 0465-37-2758(直通) FAX 0465-37-5356	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過	<p>会場参加及びZOOMによるオンライン参加のハイブリット開催 出席委員 会場参加:4名、オンライン参加:2名 (欠席2名)</p> <p>1 会長挨拶 ・養護学校が特別支援学校へと校名変更されるなか、小田原も「支援」学校であるとあらためて実感させて頂いた。今日もより良い学校にしていくためにお集まり頂いている。より良い会議の場となるように願っている。</p> <p>2 校長挨拶 ・まだまだ暑い中ではあるが、そろそろ学校再開の準備を始めている。最近のコロナの感染状況もまた変わってきていることから、安全面に気を付けていきたい。 本日は一学期の取り組みを見ていただきたい。特体連のスポーツ大会において、夏休みに入りすぐ女子バスケが県内の大会で優勝した。始業式で全校に伝えたい。転入生も来る予定。今後も事故のないように努めるとともに地域と連携しながら、来年度に向けての準備もそろそろ始めていくので地域の皆様にご協力いただきたい。また、防災に関してもいろいろとお世話になるかと思う。よろしく願いたい。</p> <p>●学校評価部会 1 1学期の学校の状況について ・様々な行事が再開された。</p>	

- ・各学部
 - 小A：校外学習 ドラッグストア 電車に乗る体験。
 - 小B：遠足 フラワーガーデン。
 - 中A：宿泊学習 足柄ふれあいの村。
 - 中B：遠足 生命の星 地球博物館 久しぶりの外出。
 - 高A：修学旅行 飛行機を使って。
 - 高B：校外学習 蒲鉾作り体験 レストランで食事等いろいろな体験をした。
 - 大井分教室：修学旅行 作業や実習でもしっかりと仕事に取り組んでいる。
 - 湯河原校舎：校外学習 博物館見学。
- ・5月「なかよくなるろう会」が復活し、体育室に集まって実施。
 - 高A 体育大会（陸上競技）に参加。 久しぶりに大きなフィールドで身体を動かした。
- ・6月「弘済会コンサート」を実施。
- ・7月より水泳授業再開（9月も予定）

2 意見交換

- ・外に出る機会がもどってきた一学期。本当に良かった。
- ・陸上大会は湯河原校舎と小田原校舎で実施しているが、大井分教室は別になるのか。
 - ⇒今年度、大井分教室は記録会として別にやる。
- ・知的部門の高等部として3校舎がそろそろ機会があるといい。大勢で集まる体験は大切。
- ・湯河原校舎と小田原校舎と一緒に活動を行うことで良い点は？
 - ⇒久しぶりの再会や、一緒にやれたことが良かった。湯河原校舎は離れているので、時間的にハンディはあった。今後も政治教育、コンサート等一緒に行える活動を増やしていく。3校一緒の活動がこれからも大切になってくるかと考えている。
- ・行事等で生徒同士の交流について聞かせてほしい。
 - ⇒競い合って走ることや、友達の友達と交流する体験、修学旅行では（今年度湯河原は在籍者がいないので昨年度の話ではあるが）一緒のグループで活動してことで仲良くなることができた。
- ・コロナ禍が明けていろいろな体験ができてよかったが、保護者から何かご意見等はあったのか。
 - ⇒部活動で大人数の活動に参加でき、保護者も本人も楽しかった。

たとの声があった。もっとやりたいという声も聞かれた。

- ・行事に参加について、本人の状況で参加できないという子どもはいるのか
⇒実際ある。大人数の活動に参加することが厳しい子は少し離れて参加するなどの形をとっている。湯河原校舎ではリモートでの取り組みもしている。
- ・北海道の修学旅行の参加人数等教えてほしい。
⇒生徒人数30名、教員数18名、空港まではバス利用。
- ・大井分教室はどうやって行ったのか
⇒新幹線を利用。
- ・修学旅行は集合場所がとても混雑していて大変であった。旅行先でも他校の児童生徒がたくさんいて世の中が動き出したと感じる。
- ・保護者の意見について、体育大会後などにアンケートを実施していただけるとよいのではと思う。
⇒実施していきます。
- ・湯河原と小田原校舎でのリモート授業について、コロナ禍が解消されてきているが、交流や授業でのICTの活用はどの程度継続して行われているのか。
⇒集会、始業式等へはほぼ参加して行えるようになってきたが、リモート参加（2割程）も残している。B部門では授業でiPad等を活用することが多くなった。湯河原校舎は継続的に使うことも多いが、式等は皆で集まって、小田原校舎とリモートでつないでいる。湯河原校舎B部門などは弘済会のコンサートにリモートで参加。コロナ禍でできるようになった事は今も継続して行えている状態。
小AでもiPadで友達に買い物をお願いするなどの活動をしている。将来的に画面を通してのやり取りの経験が生活で必要になってくると思われる。
- ・iPadは学校にどれくらいあるのか
⇒3人に1台くらい。日常的に使える形になっている。
Orihimeの活用もしている。
 - ・校舎が何か所もある学校は、つながり合うことができる。コロナ禍ではなくなったが、大事なものとしてICT端末の活用など行ってほしい。

●部会会議（各部会）

●学校運営協議会

1 部会報告など

<切れ目ない支援部会>

- ・足柄小学校との人的交流（研究）について報告
- ・特別支援学校の教員が地域の学校へ出ていくことはとても良いこと。インクルーシブについて保護者の理解が大切。学校がどのようにつなげていくのが課題。

<防災部会>

- ・避難訓練について報告と今後の予定
- ・課題：肢体不自由部門の避難方法
非常時の電源の確保について
- ・湯河原校舎で停電が2回あったが非常用電源が使えた。（町の担当の方との連携も取れた。）人工呼吸器の訓練を保護者で行った。また、車いすの避難についても知ってもらえるとよい。小さな積み重ねが大切。避難訓練を見てもらい状況を知ってもらう機会を作っていく。

2 意見交換

- ・切れ目ない支援部会について感想をお聞かせください。
- ・小中の支援級の話聞くことができている。
- ・お母さんたちが子どもの障害を受け止めていくことが難しい中、情報をつないでいくことは大切。受け入れ側、それぞれの場所が障害の理解をして受け入れていくことが大切だと思う。きちんと人を理解していくこと、受け入れ体制作りの大切さを感じている。受け入れ側の質的な部分も大切。
- ・新しい学校づくり、インクルーシブについて、統廃合が進み、バリアフリー化が必要。これから一般の小中学校に入れるなら、研修の必要性や地域住人の理解が大切。
- ・地域の方とつながれることはありがたいと感じている。

3 まとめ

○校長

- ・地域とのつながりを大切にしたい。ICT教材（タブレット）の一人1台配備について、6月に文科省から県に話があり、早急に進めていくことになった。9月からいろいろな動きがあるかと

思うが、保護者の皆さんの意見もお聞かせいただきながら進めていくので、ご協力をお願いしたい。また、安心安全な学校づくりを進めていきたい。地域保護やと学校が連携しながら進めていくので、よろしくをお願いしたい。

○会長

- ・まだまだ暑い日が続くので、健康に留意して乗り切りましょう。
- ・神奈川は支援学校で統一。他県は特別支援学校。その意味を振り返りつつ、このような場でこれからも勉強していきたい。

第3回学校運営協議会は11月14日（火）

【切れ目ない支援部会】

参加者 6名、欠席者 2名 事務局 2名

○「人的交流による研究」の報告

- ・近況報告
- ・地域の小中学校からインクルーシブの研修会の依頼
- ・夏の公開研修会はインクルーシブをテーマに行った
- ・校内でもインクルーシブについて全体で考え取り組んでいく

○支援のノウハウについて支援学校の先生から地域の先生に伝えていけるといっても良い取り組みだと思う。進めていって、それがほかの学校に広がっていければとてもよい。

○足柄小学校の現状を教えてください

- ・支援教育を基本としてい。学校内で理念を共有し、取り組んでいる。具体的には、支援教育計画があり、ケース会や校内委員会の具体的な計画やユニバーサルデザイン、支援シートなどについて盛り込まれている。月に一回ユニバーサルデザイン通信が発行され、校内のユニバーサルデザインを教員向けに紹介している。教育相談コーディネーター通信も月に一回発行され、保護者に好評である。教育相談コーディネーターは4人いて、連携しながら支援にあたっている。通常級でのインクルーシブ教育というところまではまだ行っていないが、前向きに取り組もうとしている。

○足柄高校のインクルに入れば、座っていれば単位がもらえる。小学校の保護者で、支援級ではなく通常級で、座っていることができるようにさせてほしいという要望がある。学習支援はないのか。

・高校と小学校の教員で情報共有がされていないのかもしれない。高校での支援や正しくインクルーシブ教育について周知されれば。

○ある中学校では、特性に合わない支援を行っていた。

・インクルーシブ研修を依頼された中学校では、積極的なインクルーシブ教育に取り組んでいた。学校により、差があるかもしれない。

○未就学の保護者は不安が大きい。学校へ行くことに不安も大きい。保護者の理解が子どもへ影響していると感じる。親がどんと構えていれば、うまくいくこともある。

○特別な支援が必要な子供が増えているというが、県ではどのような対策を行っているのか。

・多様な学びの場の設置、専門職の配置、教育相談コーディネーター養成、校内委員会、個別の指導計画など

○子どもがどのように進んでいくかだけでなく、学校側がどうつなげていくかも大切では。

◎全体会でのまとめの後の感想について

・参考になった

・子どもの情報をつなげていく事が大切。幼稚園から社会に出るまでそれぞれの場所が理解をしていくことが大切。受け入れ側の体制が大切。

・小田原市の教育委員をやっている。通常級にどの子も通ってほしい。そのためには設備の改修や先生の研修も必要。統廃合される学校をコミュニティのための建物にして

【防災部会】

参加者 3名 欠席者 なし 事務局 3名

○小田原校舎

①避難訓練実施報告、反省点等

②今後の避難訓練について

③課題について・・・B部門避難方法：避難車、施設面：電源確保等いずれも高価で今すぐは難しい

④地域との連携

○湯河原校舎

・停電が2回あった（大雨の時）。いずれも10分程度だった。

その際に非常用の電灯が作動した。全体の1/3程度。エンジンの匂いがした。町の福祉の方から人工呼吸器の生徒について確認の連絡があった。福祉避難所（たんぼぼ）とも確認が必要。人工呼吸器の生徒については、避難訓練の時に保護者にもつきそってもらった。

・湯河原校舎の海拔は、14.5mと確認できた。（津波の想定は11～12m）

・学校が閉まっている時に、災害が起き、学校を開ける場合は、近くの職員が開けるようにしている。

○情報交換・意見交換

・木村委員より・・・津波の心配はない。川の工事をしたが、大雨の際には水位が一気に上がる。ここら辺は内水氾濫が多い。

・2019年千葉の台風で避難所を開設した時は、ペット問題が起き、車椅子3名は人手不足のため、断った。

・自治会は16有り、避難所は公民館等分散している。（広域：富水小）小田原支援学校（以下学校）は、東富水地区になり、東富水小が避難場所になっている。しかし、人によっては、泉中や小田原支援が近いと言う人がいる。

（教頭より、小田原支援学校は、障害者等の緊急受入れ先となっていると確認有り）

・以前は、子供は富水小、親は東富水小と分かれていた。今、いろいろ改善している所である。

・防災はやればやるほどきりがなく、いろいろな意見を聞いてしまうと身動きが取れない。行政は人手不足で、「地域で」とすぐに言われてしまう。

・今度自治会で集まって、話し合いがある。小田原支援学校の避難訓練について話してもよい。

・小田原支援の訓練も見てみたいが、10月はまだ暑く、高齢者にとっては危険な場合もある。

・小田原支援での車椅子の訓練は、地域でも役に立つので、情報としてほしい。（鈴木副校長から、学校では車椅子の持つ所にテープを貼っているとアドバイス有り）

・小田原市の動きとして、大きな防災倉庫を作る予定。（アリーナの倉庫では小さい）川をはさんで東西に。また、民間の倉庫や物流センターを借りることも考え、倉庫を分散させる計画もある。

	<ul style="list-style-type: none">• デイサービスでも避難訓練があり、子ども達も小さな積み重ねを体験している。• PTA で担架を買う話が出ているが、A 部門には、包めるタイプがよいと思う。• 普段からできることをチェックし、行っていくことが大切だと思う。• 学校の避難訓練を見てもらえるのは良い。お互いを知ることから始める。
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------